

うりずんスクール

～うちなーんちゅと自然をつなぐプロジェクト～

メンバー

西嶋櫻 古川瑠希 鈴木陽樹

背景



ヤンバルは**多種多様な生態系**を育んでおり、2021年に世界遺産に登録された。

周辺海域の多くはサンゴ礁地形であり、その複雑な地形は多くの生物の住処となっている。

沖縄には数多くの自然環境が残っている。

生態系サービス

魚を売る

漁師は魚を獲る



資源

経済価値



魚を食べる

生態系 → 資源 → 経済

実質的でない価値

- 美しい景観による安らぎ
- 自然の存在は心を穏やかにする

様々な自然体験



人々の感受性と心を
豊かにする



子供たちの現状

自然と触れ合う機会**減**

- デジタルコンテンツの増加
スマートフォンの登場により動画・ゲームなどの
コンテンツが充実
→外で遊ぶよりお手軽・低コスト



依存すると

与えられたものだけで満足する人材

行く末は

思考能力を低下させ
自分たちの未来を切り開けない

- 沖縄の自然は魅力も多いが危険も多い
→海や山へ行かないように教育されている

地元の人ほど自然環境の実態を知らない。

取り組むべき課題

真の意味で社会の問題を主体的に解決できる人材を育む
→幼少期から自然を含めた地域の良さを知る必要がある

そのために

沖縄の子どもたちに自然の中で安全に
知識や経験を積む機会を提供する。

実施内容

1. 子供たちをつれて周囲を散策する
2. 周辺に生えている植物等の解説をする
3. 子供たちに生物を採集・観察してもらい調べてもらう。
4. 帰って観察した生物をまとめる



実施スケジュール

- 8/8 末吉公園(那覇)
- 8/10 マングローブ(金武)
- 8/15 大度浜海岸(糸満)
- 8/17 まとめ



末吉公園



- 末吉公園は小学校からも近く来たことがある児童もいた。
- 用意した観察ケースに採集した昆虫や魚を入れて各々観察した。
- 児童は生物の名前をノートに記録した。

マングローブ(億首川)



マングローブ内で採集・観察を行った。

後半はマングローブを構成する植物の解説をした。

大度浜海岸



- ビーチコーミングと磯歩きを行った。
- 指導員はマイクロプラスチック問題について説明した。

10月19日の琉球新報に掲載



本活動は10月19日の琉球新報で報じられた。

その後の活動

- うりずんスクールで子供たちは外来種について知った
- 子供たちや先生・保護者の方も外来種に注目
- 校長先生や学校の自動がビオトープ環境に注目

小学校のビオトープはやんばるのフナやエビを放流

しかし

グッピー・テラピアなどの外来種が多い

学校のビオトープで在来のフナやミナミメダカを増やそう



ビオトープの水と泥をすべて抜く

先生やPTAなどの保護者を
中心に清掃活動を開始



在来のフナについては保護
今後はミナミメダカを放流予定

考察

- うりずんスクールを通じて限定的だが子供たちの生物や自然に対する興味を深めることができた。
(元々の意識が高かったかもしれない)
- 子供だけではなく周囲の大人を巻き込めた。



大人たちの中には興味はあるが
きっかけがない人も多いのではないか？

本活動を他の学校区で数日実施することで子供だけでなく
大人に対してのきっかけづくりにもする

一方で対象年齢が低すぎた可能性がある。

- 小さい子たちは面倒を見ること自体が大変
- 調べ学習が十分にできなかった可能性がある。
- 図鑑のレベルが高かった。

- 小学校低学年の頃は好奇心旺盛でもともと興味がある
- 中学・高校の段階で徐々に興味なくなるのでは？



小学校高学年や中学生を対象にした方がよかった可能性

まとめ

- 子供たちの自然への興味をより促進できた
- 低学年以上の子供を対象にしてもいいかもしれない
- ビオトープの活動など大人への関心も広がった



うりずんスクールを行うことでいい意味で
思わぬ波及効果があった

ご清聴ありがとうございました。

